

- いう身体技法の成立を、よりはば広い社会的・文化的文脈の中で探った画期的な仕事として北田 [1997] [1998]。
- (5) 乃村工藝社 [1975] 参照。他には、当時味の素に籍を置いていた大智浩が「東亜民族体育展」(大日本体育協会主催、会場銀座松屋)を、パリから帰朝した里見宗次が「新体制早わかり展覧会」(大阪毎日新聞社主催、会場大阪松阪屋)を手がけるなど、有名なグラフィック・デザイナーが展覧会の製作に参加した例も多い。
- (6) この一文が『印刷報道研究』(『プレスアルト』から改題)に載った際の、筆者の肩書きにある「日本展覧会製作配給社」に関しても一切が不明だが、『プレスアルト』誌上に「大毎文化教室」の肩書きで展覧会月評などを執筆していた小林敬三が、1944(昭和19)年3月の『印刷報道研究』終刊号に、「日本展覧会製作配給社理事」の肩書きで「展覧会礼賛」という文章を寄せているところみると、両者の間には何らかの関係があるのかも知れない。
- (7) 1943(昭和18)年5月号の『印刷報道研究』の記事「生産拡充と展覧会の歩む道」より。これは「毎日文化教室工房員」による匿名記事。

【参考・引用文献】

赤澤史朗 1985 『近代日本の思想動員と宗教統制』 校倉書房  
 1995 『戦中・戦後文化論』『日本通史第19巻』岩波書店  
 赤澤史朗・北河賢三編著 1993 『文化とファシズム』日本経済評論社  
 Edelstein, Alex 1997 “Total propaganda: From mass culture to popular culture” LEA  
 古川隆久 1998 『皇紀・万博・オリンピック』中央公論社  
 橋爪紳也 1998 『祝祭の〈帝国〉』講談社  
 初田亨 1993 『百貨店の誕生』三省堂  
 ハーイ、ピーター 1995 『帝国の銀幕』名古屋大学出版会  
 報道技術研究会編 1943 『宣伝技術』生活社  
 百貨店事業研究会編 1935 『百貨店の実相』東洋経済新報社  
 今竹七郎 1939 「百貨店の図案家の話2」『プレスアルト』26  
 伊藤重治郎 1940 「時局下に於ける百貨店の職能」『日本電報』8703

神野由紀 1994 『趣味の誕生：百貨店がつくったテキスト』勁草書房  
 金田廣一 1944 『「スパイ晒しもの」流言記』『印刷報道研究』73  
 川勝堅一 1936 「百貨店と催物」『三田広告研究』20  
 木村宗一 1941 「時局下百貨店の国策協力」『日本電報』8711  
 北田暁大 1997 「〈気散じ〉」の文法『東京大学社会学情報研究所紀要』54  
 1998 「〈広告〉の誕生」『思想』889  
 喜多川周之 1982 「銀座のこの頃」『証言の昭和史5』学習研究社  
 南博+社会心理研究所 1987 『昭和文庫1925~1945』勁草書房  
 宮崎博史 1955 『緑野ふたたび』電通  
 森山孝一 1941 「百貨店の催し物としての国策展覧会に就いて」『広告界』18-6  
 中村秀之 1998 「逃げ去る都市」『10+1』13  
 乃村工藝社編 1975 『70万時間の旅II』乃村工藝社  
 小川喜久雄 1943 「国策宣伝と百貨店の展覧会」『印刷報道研究』69  
 1944 「映画劇場の展覧会」『印刷報道研究』71  
 坂上康博 1998 『権力装置としてのスポーツ』講談社  
 櫻本富雄 1995 『日本文学報国会』青木書店  
 櫻本富雄・今野敏彦 1985 『紙芝居と戦争』マルジュ社  
 渋谷重光 1978 『語りつく昭和広告証言史』宣伝会議  
 清水勲 1995 『漫画にみる1945年』吉川弘文館  
 白根嵩 1939 「百貨店の国策宣伝」『広告文化』15  
 津金澤聡廣 1998 『現代日本メディア史の研究』ミネルヴァ書房  
 津金澤聡廣・山輝雄編著 1998 『戦時期日本のメディア・イベント』世界思想社  
 内川芳美編 1976 『日本広告発達史』電通  
 山口昌男 1995 『「敗者」の精神史』岩波書店  
 吉見俊哉 1992 『博覧会の政治学』中央公論社  
 1996 「近代空間としての百貨店」, 吉見俊哉編著『都市の空間 都市の身体』勁草書房